



コミュニケーションを取りながら、視覚障害者スポーツのゴールボールに挑戦する八学光星高と市立八戸一中の生徒

八戸

光星高生が  
第一中で交流

スポーツ科学コース  
開設後初の外部実習

八戸学院光星高(小野崎

龍一校長)普通科スポーツ科学コースの1年生が16日、八戸市立第一中でスポーツ実習を行った。「非言語コミュニケーションについて学ぶ」をテーマに、手話や、視覚障害者スポーツの「ゴールボール」などを通じて、両校の生徒が交流

を深めた。

外部実習を実施したのは2020年度と同コース開設以来初めて。この日は高校生32人が先生役を務め、中学1年生65人に対して、体育の授業として実施した。

手話で自己紹介をし合ったほか、目隠しをして障害者スポーツに挑戦。聴覚や視覚が制限された中でも、さまざまな情報を伝えて感じ合えることを楽しみながら学んでいた。同高の小林煌理さん(16)は初の実習を終え、「先生

という立場の難しさを知った。考える力を付けるためには、いろんな人との意思疎通も大切だということを感じられたと思う」と成果を実感した様子。同中の吉崎綾夏さん(17)は「4月からは新入生も入学する。先輩として、たくさんコミュニケーションを取りながら接してあげたい」と意気込んだ。

(上村公悟)